

郵政省では今年度の切手趣味週間にちなみ、当館が収蔵する国宝「松浦屏風」の20円郵便切手をこの4月21日から発売しました。これは各マス・メディアを通じて報道されましたので皆さんも御存知のことと思います。友の会の方々も切手マニアを自称する方は、通信販売や郵便局での朝早くからの行列でこの新発売切手をいち早くお求めになったかも知れません。

郵政省はもう既に多くの国宝、重要文化財の切手化を行ってきましたが、18人の女性が当時流行の衣裳を競うかのように居並ぶこの金地屏風の切手化は正に相応しいもので、当局はそのデザイン化に当っても、六曲一双の屏風の半分即ち一隻の更に三分の二の画面を20円切手2枚連続の意匠に仕立てました。現在当館が開催している「東西の交流」展においても「松浦屏風」はその華麗さにおいて極立っています。この切手発売により、切手愛好家の手によって大和文華館の名品の一つが日本全土はもとより、世界中に知れ渡ることを私共は喜んでいきます。去る4月23日には近畿郵政局長より館長に宛てる同切手の贈呈式が展示中の松浦屏風の前行われました。

それより前、3月にはこの屏風の元の持主であった北九州の大名松浦家の子孫に当る松浦敏氏夫妻が訪れ、同屏風を丹念に御覧になり、未だ不明の同屏風の由来解明に協力のお手紙を下さいました。

海外からもベルギー王立美術歴史博物館長R・デ・ルー氏夫妻が近鉄デパートでの同館所蔵浮世絵展の折に、また元大英博物館東洋部長のバジル・グレイ氏一行などが訪れて同屏風を見学されるなど、この春は、あでやかな「松浦屏風」をめぐる訪問者の多い季節でした。

有朋自遠方来



写真上より

ベルギー王立博物館長夫妻 3月22日
 松浦敏氏夫妻 3月29日
 バジル・グレイ氏一行 4月12日
 松浦屏風切手贈呈式 4月23日

季刊 美のたより No.32

昭和50年 6月1日

発行 大和文華館